

●meviyによる部品調達フローのイメージ



3Dデータアップロードで「即時見積もり」「最短1日出荷」を実現

ビューワも独自開発し、ブラウザ上でもCADを操作しているのと同じ感覚で利用できます。

ドラッグ&ドロップで3次元CADデータをアップロードすると、独自開発のAI形状認識エンジンが形状を認識します。AIがバックグラウンドで寸法、穴数、穴の形状、最適な加工方法などを割り出し、工程ごとの原価計算を行ったうえで価格と納期を数秒で回答します。穴の種類や公差などは画面上で簡単に入力・編集できます。

3次元CADデータは、STEP、Parasolidといった中間フォーマットだけでなく、ほとんどの3次元CADのネイティブフォーマットにも対応しています。

見積りを確定すると「型番」が発行されます。これはお客さま専用のカタログ番号で、ミスミはこれを永久保管します。何年後でも、同じ型番で注文すれば同じ製品が届きます。

ISO対応などで2次元の三面図を保管しなくてはならない場合もあるので、3次元モデルを自動投影し、簡易的な三面図を作成する「簡易2D図」の機能も好評です。

■meviyがもたらす2つの革新

——meviyの登場によって何がかわるのでしょか。

吉田 「顧客サイド」(フロントエンド)の革新と「生産サイド」(バックエンド)の革新——2つの革新を実現します。

「顧客サイド」(フロントエンド)の革新を実現するのは、特許取得技術による「AI自動見積もり」です。AIが3次元CADデータから金額を算出します。それと同時に製造可否も自動で判断し、手戻りを回避できます。

「生産サイド」(バックエンド)の革新を実現するのは、デジタルテクノロジーを最大限活用した「デジタルマニュファクチャリングシステム」です。独自開発のCAMがCADデータと属性情報からツールパス(加工データ)を自動生成し、加工マシンに転送します。

この2つの革新によって、「図面品」でもカタログの「規格品」と同じように「作図不要」「見積り不要」「确实短納期」(最短1日出荷)を実現できます。

■meviyが提供する圧倒的な「時間価値」

——コストダウンの効果も大きいのでしょうか。

吉田 図面品は相場があってないような世界ですから“最安値”を狙っているわけではありません。meviyが提供するものは、圧倒的な「時間価値」です。

構成部品1,500点のFA設備を例にとると、3次元CADで設計した後、作図に2カ月、見積り回答に1週間、製造・納品に2週間で計96日——3カ月以上かかります。meviyは最初の設定作業で1週間かかるとしても計8日。差し引き88日——92%もの時間を削減できることになります。

この88日は、今まで人間が失ってきた時間です。meviyを使うことによって、この時間がそっくり生み出されることになります。meviyの本質は「時間の創造」なのです。

■想定以上の勢いで利用件数が増加

——お客さまの反応はいかがですか。

吉田 すでに多くのお客さまにご活用いただいています。meviy全体の顧客数は2万ユーザーを突破。リピート率は80%以上、利用部品数は累計170万点を超えました。当社の想定を上まわる勢いで利用件数が増えています。

日本で事業モデル確立後は、グローバル展開していく考えです。特に欧米は時間あたりのコストに対する意識が高く、ニーズが強いと感じています。

——今年は、板金部品と切削プレートにも対応しました。

吉田 「図面品」のうち70~80%は板金部品と切削部品が占めています。「規格品」も同様ですが、金型部品・試作品と比べ、市場規模は圧倒的に大きい。実際、2万ユー